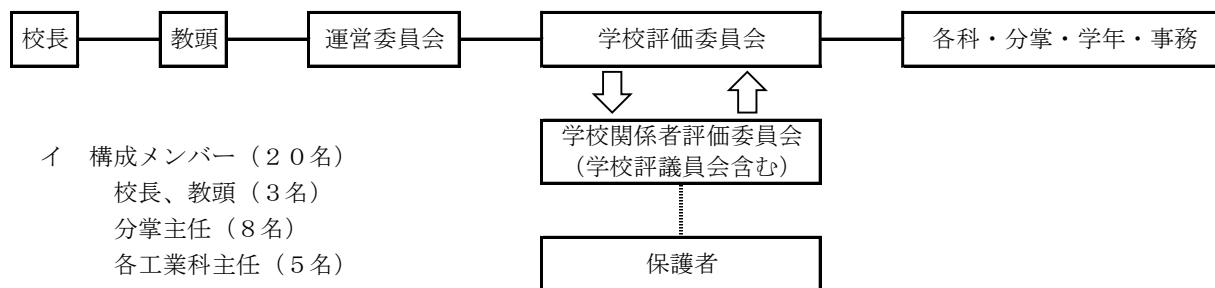


9 学校評価

(1) 学校評価のための組織

ア 組織図



- イ 構成メンバー（20名）
 校長、教頭（3名）
 分掌主任（8名）
 各工業科主任（5名）
 各学年主任（3名）
 事務部（1名）

(2) 学校評価の年間計画

- ア 4月当初に本年度の重点目標を決定する。
 イ 本年度の重点目標をもとに、4月中旬までに各分掌・各学科・各学年会の重点目標および具体的方策を決定する。
 ウ 9月に課題別評価シートの内容で中間評価を行い、修正点を明確にする。
 エ 2月に課題別評価シートの内容で年度末評価を行い、次年度の課題および目標を決定する。
 オ 定期的に学校評価委員会を開催し、重点目標の達成状況や改善点の確認をする。また、適宜学校関係者評価委員会より意見を聴取して、外部評価の内容・方法等を検討する。
 カ 学期に1回もしくは適宜、学校関係者評価委員会を開催し、学校評価の取組状況に対して説明をする。また、校内見学や授業参観等により積極的に意見を求める。
 キ 学校評価の取組結果は、PTA総会、PTA会報、ホームページ等で公開する。

(3) 学校評価

本年度の重点目標	自ら考え行動できる社会人に必要な資質・能力を高める指導を多面的に展開する。 教科ごとに基礎学力の向上を図り、基礎から応用につながる指導を強化する。 あらゆる機会を捉えて、コミュニケーション能力の向上ならびに創造力を高める方策を考え実践する。 あらゆる教育活動において、それぞれの生徒が活躍できる場を数多く設定し、高校生活の充実と生徒が成長できる機会を増やす。 組織間の縦と横の連携を強化し、教職員が一丸となって教育活動を展開する。 教職員間の協力体制の在り方を点検し協働して業務に当たるなど、教職員の在校時間の適正化を図るとともに多忙化を改善し、教育活動を充実させる。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
PTA活動 (総務部)	①PTA活動を充実させる。 ②保護者および生徒から信頼される学校を目指す。	①係分担を明確にし、役員と委員が協働しながらPTA活動を行える仕組みを整える。 ②PTA役員会・委員会において、意見交換ししやすい雰囲気づくりに努める。	①PTA活動の実施時期や内容を予め周知し、計画的に参加できるようにする。 ②PTA役員会・委員会などから得られた意見を集約し、できる限り改善を図る。
学習活動 (教務部)	①基礎学力の向上をはかる。 ②社会や時代の変化に対応できるように人材を育てる。 ③自ら学び、深く考え、広い視野を持って主体的に行動する生徒を育てる。	①生徒が理解しやすい授業を実践する。 ②ICTなどの活用により学習効果の上がる授業を心掛ける。 ③将来を明確にすることで、自ら学び考える力を高める。	①試験などを計画的に行うことにより、復習を中心とした家庭学習の定着を図る。 ②ICTなどの活用により動画や写真などを活用し、より具体的でわかりやすい授業を心掛ける。 ③教科横断的な授業に取り組むことを心掛ける。
読書指導 (図書係)	①読書への関心を高めることができるために、機会を増やす取り組みを実施する。 ②脱ネット依存を目指すなど、生徒の実態に即した読書活動を推進する。	①教職員全体で良書を選定することや、友人同士で本を勧め合う機会を設けるなど、読書への関心を高める取り組みを実施する。また、朝読を通し、読書の機会を確保する。 ②図書館だよりを適時に発行し、より活発な図書室運営を目指す。また、図書委員を活用し、読書活動を推進しつつ、各科の授業に役立つ図書室整備を目指す。また、図書館利用の向上と、読書への習慣から、脱ネット依存への取り組みを、保健部と連携しながら行う。	①読書に関して生徒の声を聞くなどして生徒の読書活動について把握する。また、朝読をより有意義な能動的な活動にする。 ②図書委員による図書館だよりを発行し、生徒が心身共に健康な状態で学校生活を送れるよう、読書活動を利用する方法等の情報を提供する。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
生徒指導 (生徒指導部)	①互いの生命と人権を尊重する心ができるための育成をする。 ②「生き延びる力」を身に付けるための育成をする。 ③コミュニケーション能力をもつことができるための育成をする。	①自己肯定感を高めるために自他ともに尊重し、思いやりのある行動を常に心がけさせる。 ②基本的な生活習慣の確立をはかり、学校生活を中心とした高校生活を意識させる。また、交通法規の遵守や交通マナー、校則への規範意識を意識させる。また普段より危険から身を守るための知識などを学習させる。 ③生徒自身による各種手続の実践を通して、入室時などでのコミュニケーションを通して、礼節を重んじる心の育成を行う。	①自己肯定感を高めるために、感謝の気持ちを持ち、思いやりのある行動を意識し、様々な物事に対して積極的に取り組めるようにする。 ②学校の教育活動を通じ、本校のスクールミッションである社会や時代の変化に主体的に適応できるよう、「新しい価値を創造する力」「緊張とジレンマに対する調整力」「責任をとる力」を意識する。人としての在り方、生き方を自覚させ、自ら判断し責任感をもって行動する力の育成をはかる。また、交通や情報のマナー・モラルや規範意識の確立を図り、正義と公正さを重んじる心や態度を育成する。 ③挨拶から始まるコミュニケーション能力の向上をはかり、望ましい集団活動を通して規律を尊重し、他とともに協調してよりよい生活を築こうとする態度を養う。
いじめ防止 対策の推進 (生徒指導部)	①未然防止に係る取組を充実する。 ②早期発見への対策をする。 ③いじめに対する共通認識及び情報共有を充実する。	①様々な学校行事を通じ、高校生活の充実と生徒のコミュニケーション能力の育成をはかる。 ②個人面談、保護者会、授業の取組等、教職員の事前、事後の情報共有の場を積極的に設ける。また、保護者、生徒に向けた学校からの伝達や学校の相談体制(スクールカウンセラー等)を積極的に伝え、早期発見につなげる。 ③心のアンケートの実施、いじめ不登校対策委員会はもとより、早期発見、未然防止を目的とした情報共有と適切な対応の検討を、各種会議(分掌会、学科、学年主任者会、学年会等)で活用する。	①コミュニケーション能力の向上をはかる機会として、様々な学校行事に意欲的に取り組む姿勢や協力する姿勢を経験させる。 ②相談しやすい環境を整え、生徒、保護者への周知を図る。また情報共有の場を積極的に増やし、早期発見に繋げる。 ③心のアンケートについて、生徒が記入しやすい環境づくりを提供し、実践したい。
生徒会活動 (生徒会部)	①工科高校としての学校行事の在り方のさらなる検討。 ②全校生徒が学校生活をより健全に楽しむための雰囲気づくりを牽引する。	①体育大会の「体育祭」への名称変更、文化祭の一般公開に向けた検討と立案を、生徒の意見を取り入れつつ行い、生徒全員に当事者意識を持たせる。 ②生徒主体の活動を通じて生徒会活動の「見える化」を目指す。そのために、昼の放送、SNSなどを活用した総合的な発信力の強化と、アンケートなどを活用した意見集約システムを工夫する。	①一般公開に向けて高まる周囲の期待と生徒の期待に応えつつ、無理なく安全な運営を目指す。 ②各種運営に携わった生徒が達成感を得られるように、教員が的確なサポートをする。
進路指導 (進路指導部)	①様々な場面でのキャリア教育を推進し、生徒の多様な希望進路の実現をサポートする。 ②生涯の職業を想定した進路意識を育成し、主体的に希望進路を実現するために必要な基礎学力や資質の向上を図る。 ③今後の生徒募集に繋がるように、外部への情報発信をする。	①校外で実施される見学会や説明会等への積極的な参加を促し、進学者補習や小論文対策等も計画的に実施するなど、多様化する進学希望への指導をより一層充実させる。 ②学年に応じた進路講話や進路ガイダンスなどを通して、自ら情報収集させ、進路選択への知見を広め、職業観や勤労観の育成を図る。 ③本校のキャリア教育体制や取組の魅力が伝わるようにホームページの充実を図る。	①受け身ではなく、主体的に考え、調べ、選んで行動できるよう、各学年会、学科、分掌、教科と連携した指導を行う。また、保護者にも情報を提供して、連携した指導を行う。なお、情報提供はタイムリーさを念頭に置いて実施する。 ②希望進路実現のために必要な学力と高い資質の必要性を理解させる指導を行う。 ③文章だけでなく、写真等で視覚的に理解しやすいような構成を心掛ける。
保健指導 (保健部)	①救急体制の整備。 ②性についての指導の充実。 ③校内環境整備、美化の強化。 ④保健・美化委員会の積極的な活動の推進	①健康面で配慮や定期観察が必要な生徒情報の周知徹底をする。また、生徒及び職員の見守り講習の充実を図る。 ②性に関する保健講話や生徒保健委員会による啓発活動を実施する。 ③清掃重点区域の設定、清掃区域の見直しと清掃道具の整備をする。 ④美化委員及び生徒会役員によるゴミの分別収集、清掃点検及び保健委員によるほけんだより作成、文化祭発表等を実施する。	①各職員室に生徒の健康情報を綴ったファイルを配置し、職員が確認しやすいようにする。また、職員と保護者の希望者へは、心肺蘇生法講習とシミュレーション実習を実施する。生徒へは1年生全員を対象に、教科保健で心肺蘇生法の実習を行う。部活動代表者へは緊急時対応についての講習を行う。その他として、2年生の希望者を対象に、普通救命講習の資格取得を実施する。 ②1、2年生を対象としたデートDV予防啓発講座、3年生を対象とした生殖についての講話を実施する。また、1年を通し、ほけんだよりや文化祭企画で、生徒保健委員会による性に関する啓発活動を行う。 ③清掃重点区域をトイレとし、美化委員による清掃点検を実施する。 ④清掃時、美化委員及び生徒会役員によるゴミの分別収集を徹底する。また、保健委員によるほけんだよりの作成、文化祭発表、水質検査を実施する。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
教育相談 (教育相談係)	①組織的な生徒支援。 ②特別支援教育の推進。	①ケース会議や教育相談、特別支援教育委員会を活用する。また、SCやSSW、外部専門機関と連携した生徒支援を行う。 ②「個別の教育支援計画」、「学校生活における配慮申請書」を活用し、適切な生徒支援を行う。また、「学校生活における配慮申請書」も活用して必要な支援を行う。	①ケース会議で、支援方法や学校で行う合理的配慮の検討を行う。学期に1回開催する教育相談・特別支援教育委員会で支援や配慮が必要な生徒情報を共有したりする。会議の内容は委員を通して全職員に連絡し、生徒情報ファイルに綴じる。また、SC、SSWの面談後、生徒の様子や支援方法について話し合う場を設定する。外部専門機関に対し、必要に応じて情報提供を行ったり、連携を取ったりする。 ②「個別の教育支援計画」について、年間のスケジュールを決めて家庭と連携しながら運用する。「個別の教育支援計画」「学校生活における配慮申請書」の運用について、職員会議で周知する。
工務 (工務部)	①工業の各分野に関する専門的な教育の充実と社会で通用することができる人材を育てる。 ②地域社会に必要とされる学校作りの推進と広報活動を図る。	①生徒が積極的、主体的に資格取得に取り組む姿勢を育てる。また、あいちSTEM能力育成事業やクラフトマンIII・各種競技会など、学校外への取り組みに生徒の活動する場面を探し、その活動成果を共有する場面を設ける。 ②地域や中学校との交流を積極的に進める。また、学校案内やチラシの作成をし、その案内や配布、動画の配信を通して情報を発信する。	①資格取得は、行事計画や考査等の予定を考慮し、計画的に進める。また、将来に渡って有用な国家資格にチャレンジし、意欲的に取り組む姿勢を育てる。そのためにも、各種研修や各種大会、地域との交流など、生徒が安全に安心して活動できる場面を設定する。 ②地域社会に必要とされる学校であるために、積極的に交流を進め協体制を確立する。また、他分掌との連携や、様々な媒体の活用、在校生や卒業生を活用し、効果的なタイミングと方法で、現在だけでなく将来におけるキャリアを見据えた本校の姿を、校外に案内する。
情報ネットワーク	①GIGAスクールに向けた、生徒や先生方が使えるように情報環境を整備する。 ②本校教育活動の状況をホームページなどを使って広く発信する。	①生徒や先生方が情報機器を使用し、授業などで活用できるようバックアップをする。また、ICT支援員の方などによる講習に参加していただく。 ②日ごろの活動をホームページなどで公開することで、保護者や地域の方々や企業等に本校の様子を広く知ってもらう。	①取り組みは、急がず慌てず、着実に浸透するような方策を考え実施する。 ②ホームページの日ごろの活動をもとに、更新を心がけ、校内の情報提供や、ホームページの内容の充実を図る。
ロボット工学科	①進路実現に必要な能力を身に付けることができる育成をする。 ②報告書をしっかりと書くことのできるための取り組みを行う。 ③安全教育が身につくための指導を徹底する。	①横断的・総合的な学習を通して、自己の資質・能力の可能性を発見させ、探究的に学ぶ態度を養うとともにマネジメント能力・コミュニケーション能力を向上させる。 ②職業人として恥じない報告書作成ができるよう努めさせる。 ③産業用ロボット制御やレーザ加工などにおける事故の危険予測ができる能力を身に付けさせる。	①教科間の情報共有を深め、個々の特徴をより理解するように努める。また、社会で活躍するためにより深く学ぼうとする姿勢や挑戦する態度を身に付けさせるよう、生徒とのコミュニケーションを取るよう努める。 ②提出した報告書を確認し、より良く書けるための指導に努める。 ③危険な作業の注意喚起を行うとともに、事例をあげるように努め、また清掃、整頓をさせるように指導する。
機械科	①社会に必要とされるための人材育成。 ②基本的な生活習慣を確立できるための学習を図るとともに、実習を通してコミュニケーション能力の向上を図る。	①自主性をもたせ、自らがチャレンジをする精神を促し、失敗を経験と捉えられるような考えを養わせる。また、工業における基礎的な知識、技術・技能・態度を実習等を通じて身につけさせる。 ②決められたルールを正しく守る態度や、習慣を身に付けさせ、社会性をもたせる。また、実習でのグループ活動を通して、コミュニケーション能力を向上させる。そして、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)を実践し、安全意識を高めさせる。	①生徒の観察を怠らず、その都度必要に応じて指導を行う。積極的に生徒と関わり、いざという時に力を発揮できる生徒を育成する。日頃から基礎基本を重視した授業を展開し、基礎学力を身に付けさせる。また、資格取得にも積極的に取り組むよう指導する。 ②日頃から挨拶を大切にさせ、礼儀正しい態度及びけじめのついた生活が行えるよう指導する。安全意識への取組では、実習点呼時などに安全指導を行い、自ら安全作業を心掛ける態度を身に付けさせる。また、5Sの徹底を図るため、実習時間内に必ず清掃を行わせ、環境整備に努めさせる。

項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
電気科	①基礎学力の向上を図り、基礎から応用につながる知識が身につけることができる指導をする。 ②自ら学び、広い視野をもって生徒が学習できる場を設定し、生徒が成長できる機会を増やす。	①生徒の学習において基礎基本の定着と自ら学ぶ意欲を高めるため、わかりやすい授業の実践と工夫に取り組む。また、ICT活用の機会を増やし、工業への興味関心につながる指導を強化する。また、組織間の連携を強化し、共通した基準のもと観点別評価を行えるように取り組む。 ②クラフトマンⅢや社会人講師、工場見学などの機会を設け広い視野を育てる。	①ICT活用の機会を増やし、わかりやすい授業となるための工夫をして取り組む。また、座学と工業技術基礎や実習において、関連づけやすい実習計画および進度を計画する。なお、工業技術基礎など複数の学科が関係する科目は、横の連携を取り、定期的集まる機会を設ける。 ②社会人講師や企業との連携を取り、外部の人とのコミュニケーションを取れるようにする。
建築デザイン科	①自ら考えて行動し、社会人に必要な資質を高めることができる指導を行う。 ②コミュニケーション能力の向上並びに創造力を高める。 ③教員間の連携を強化し教育活動を展開する。	①挨拶のできる生徒、はじめある行動や生活(授業規律)、5Sの徹底(整理、整頓、清潔、清掃、躰)など社会で必要とされる生活習慣を身につけさせる。 ②生徒同士が互いに学び合う環境をつくり、自ら考える力を向上させる。また、各種コンクールへの取組みをさせ知識の向上へつなげる。 ③教科の進行状況を把握し連携した教育活動が行えるように授業展開する。	①建設業の魅力を授業で伝えるとともに、チームで活動する意味を理解し、最初のコミュニケーションである挨拶を軸として基本的習慣の確立を図る。 ②資格取得や各種コンクールへの積極的な参加を促す。それに伴い、生徒の学力向上や教科での深い学びにつながるように心がける。また、生徒が積極的な発言や質問ができるような授業の展開を行う。 ③教員間で連携ができるようチームスを利用し、共有を図る。
都市工学科	①自ら学ぶ姿勢を養い、社会に必要な知識・技能の修得ができるための指導を行う。 ②基本的な生活習慣の確立ができ、社会に通用することができる人材の育成する。	①土木・都市工学に関連した資格取得を積極的に教科指導に取り入れる。また、生徒が自ら意欲的に取り組めるように、生徒同士が相互に学習できる環境をつくる。 ②挨拶・礼儀・はじめ・言葉使い等について指導し、社会人としてのマナーを身につけさせるとともに、コミュニケーション能力を育成を図る。	①資格の重要性を生徒に理解させ、生徒が主体的に取り組めるように指導する。 ②日頃から挨拶などを行いコミュニケーションの大切さを理解させる。また、その中で生徒観察を行い、個に応じたきめ細やかな指導ができるように心掛ける。
3年学年会	①主体性からの自立を考えた行動を意識させる。 ②規範意識の向上。 ③進路指導の充実。	①受け身ではなく、常に前向きに考え、自らが責任を持った行動をさせる。 ②集団におけるルールの必要性を理解させ、規律ある行動を徹底させる。 ③担任、学科、進路指導部、生徒、保護者の連携を密にして、進路指導の充実を図る。	①生きる力を持ち、自立を意識した行動を促していく。 ②社会人として通用する人間形成に向けて指導していく。 ③希望の進路実現に向けた準備として、あらゆることに積極的に取り組ませ、自己PRできる事柄を増やしていく。
2年学年会	①主体性の向上。 ②基礎学力の定着と学習意欲が向上がするための指導を行う。 ③基本的な生活習慣の確立。	①学校生活のあらゆる場面での行動について、自ら考え、責任を持った行動をとらせる。 ②授業中の意識を向上させ、学力の定着をはからせる。また、各学科において資格試験を積極的に受験するよう生徒に働きかけていく。 ③欠席、遅刻、早退をなくし時間を意識した生活を送らせる。また、挨拶を中心とした社会的マナーを意識させる。	①さまざまな場面での行動やふるまいについて、生徒自身に考えさせる場面を作ったり、指導をする。 ②学習意欲の向上を図るため、日頃の授業を大切に、集中して取り組ませる。 ③規則正しい生活習慣の確立のため、常日頃から5分前行動を意識させる。
1年学年会	①基本的な生活習慣の確立。 ②進路目標の設定。 ③学校生活の充実。	①遅刻、欠席、早退をなくし、時間を意識した生活を送らせる。 ②自己の興味、関心、能力、適性を知り、進路目標を考える機会をもたせる。 ③授業や部活動、学校行事などに積極的に取り組ませる。	①職員間で共通理解をもち、あらゆる機会において関わり、指導を働きかけ、充実した学校生活を過ごすことができるように働きかける。 ②進路ガイダンスや現場見学を活用して、進路目標を考えるように働きかける。 ③担任、学科、部顧問、保護者の連携を密にし、全体で指導にあたる。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	挨拶、マナーなど基本的な生活習慣の確立、基礎・基本の確実な定着、各種の資格取得を積極的に取得、進学希望者への補習体制の強化、5S(整理、整頓、清潔、清掃、躰)の精神を实践、研究授業や公開授業、教職員の在校時間の適正化と健康保持への取組		